

日本ソーシャル・イノベーション学会（SI 学会）の第 6 回年次大会 開催報告

日本ソーシャル・イノベーション学会（SI 学会）の第 6 回年次大会を 2024 年 9 月 15 日（日）16 日（月）に、『人と技術のソーシャル・イノベーション：〇〇社会をデザインする』をテーマに、東京都新宿区にある早稲田大学 121 号館にて対面にて開催しました。

参加者数は 150 名でした。参加者の属性は、大学教職員、学生、NPO、企業、自治体など多彩でした。初の東京開催でしたが、関西や東北などからも多くご参加いただきました。



【開会のご挨拶、チェックイン】

新川達郎会長による開催挨拶のあと、島岡未来子大会実行委員長より挨拶を行いました。



【メインセッション】

これからの社会（Society5.0 の先の社会）をデザインするために 人工知能の研究および実践の第一人者と共にメインセッションを開催しました。ご登壇者は、尾形哲也氏（早稲田大学基幹理工学部表現工学科教授）、青木俊介氏（ユカイ工学株式会社代表）、岡村麻子氏（科学技術・学術政策研究所（NISTEP）科学技術予測・政策基盤調査研究センター 動向分析・予測研究グループ 主任研究官）、相良美織氏（株式会社バオバブ代表取締役社長）、進行は島岡でした。

4 名の登壇者の研究と活動概要発表のあと、社会受容性や社会的効果の観点から話を深め、AI ロボット研究はいかにソーシャル・イノベーションへの実現手段となり得るかを議論しました。フロアからも多くの質問が出て、非常に活発なセッションとなりました。それぞれの登壇者には最後に「〇〇社会をデザインする」に何を入れるかをお尋ねしました。尾形哲也先生は「共生社会」、青木俊介さんは「人にやさしい社会」、相良美織さんは「グラデーションを許容する社会」、岡村麻子さんは、「人間らしく生きられる社会」といった提案をそれぞれからいただきました。



【分科会】

本年度より、新たに「C：分科会企画」を設け、大会テーマ企画および自由企画の公募を行いました。その結果、8 件の魅力的な企画が集まりました。分科会では、多様な視点からソーシャル・イノベーションに関する最新の研究や実践が発表され、参加者同士の意見交換が活発に行われました。



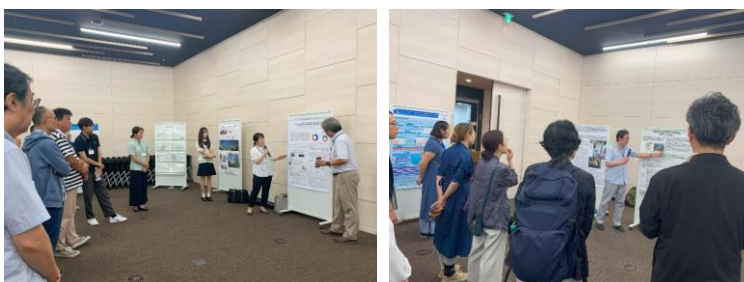
【研究発表】

「A：研究・実践発表」では、ソーシャル・イノベーションに関連する理論的および実証的な研究、または事例研究についての発表が行われました。事前に提出された報告要旨に基づき、厳正な審査の結果 18 件の論文が採択されました。発表者は会場でのプレゼンテーションと質疑応答を行いました。



【ポスターセッション】

ポスターセッションには 12 の応募がありました。セッションでは、各人がポスターの前でプレゼンを行いました。こちらも大変活発な意見交換が行われていました。



【IGAI ネットワーク】

2 日目の昼は、恒例の I G A I ネットワークを開催しました。谷口教授によるレコードカフェの学会での店開き



から始まり、軽妙なリードのもと、参加者は新たなプロジェクトの提案を行い、新たな仲間づくりを行いました。

【意見交換会】

意見交換会では、東京都世田谷区のビリヤニ専門店「ビリヤニ・ビリー！」に提供いただきました。「個人の飲食店」のネットワークのもたらすコミュニティを体現する素晴らしいお食事でした。会場には、ゆかい工学の青木さん提供によるコミュニケーションロボットも参加、計 50 名以上が参加し、大いに盛り上がりました。



【クロージング】

クロージングでは、優秀な論文発表への表彰、クロージング・次回年次大会開催校である、龍谷大学の石直子先生からご挨拶をいただきました。



【年次大会論文賞 奨励賞】

厳正なる審査の結果、下記の発表者に授与されました。

年次大会論文賞

「社会包摂に向けた当事者と共に
する変革の実践：バリアフリーeス
ポーツスクール」を事例として」

発表者：早川公 北村直也

三浦貴大



年次大会論文賞 奨励賞

「シビック・イノベーション拠点スナバが生み出す社会的インパクトの考察ー中
間支援組織の視点から分析する地域イノベーション創出の成功要因」

発表者：三枝大祐



前回に引き続き、今回もお花があふれる学会でした。いけばな療法に取り組む浜崎英子さんとそのお仲間のご協力により、会場のあちこちにお花のインスタレーションに彩られる唯一無二の学会となりました。

ご参加いただいたすべての皆様に感謝します。

査読者、座長、討論者をお努めいただいた皆様、誠にありがとうございました。





大会実行委員

島岡未来子（実行委員長）、服部篤子、金田晃一、谷口知弘、早瀬昇、早川公、小林和子、松榮秀士、西口優毅、中嶋愛、関根千佳、川中大輔、新川達郎、今里 滋、芳賀和恵、大野高裕（順不同）

大会サポート

株式会社エマージングテクノロジーズ（運営補助）
小田原真弓（早稲田大学大学院教育学研究科 博士後期課程）

報告作成

文：島岡未来子
写真：小田原真弓